

研修報告 令和3年度 放射性同位元素等取扱施設安全管理担当教職員研修

榊原 昇一

産業科学研究所 技術室 工作班

1. 研修先の機関名及び期間

研修先：九州大学アイソトープ総合安全管理センター実施のオンライン開催

期間：2021年11月11日(木) - 12日(金)

2. 研修概要

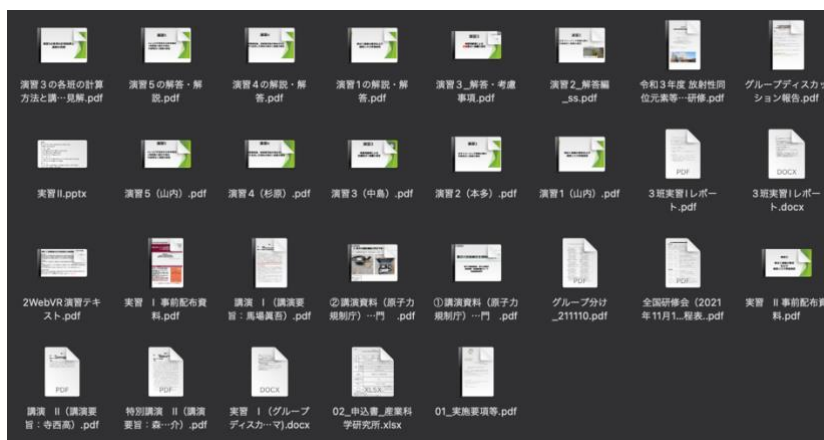
大学等の放射性同位元素等取扱施設における放射線安全管理担当教職員に対し、実習を含めた研修により最新の知識と情報を提供し、その資質向上を図り、もって教育・研究の進展及び施設周辺を含めた安全の確保を図ることを目的としています。

3. 内容と成果

この研修は全国の国立大学アイソトープ総合センターによる組織「国立大学アイソトープ総合センター長会議」の幹事校7校(北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学)が研修実施担当校として持ち回りで毎年開催するものです。2008年に大阪大学で開かれたときに参加して以来、14年ぶりに参加してみました。講演2つ、講義2つは座学をオンラインで聞くのみですが、60名の参加者を6名10班に分けての実習が1日目も2日目も3時間ずつあり、かなり集中しての参加が必要となる、良い形式でした。

実習内容は線量計算が中心で、病院での放射線治療における被ばく線量評価や、放射線に汚染された土地における暮らしの中での被ばく線量評価といった、普段産研では見聞きしない内容で、私としては楽しめました。特に目の放射線量が問題になるのがどのようなシーンなのか昔から疑問だったのが、医療現場での目視が問題になっているということが分かりました。

最後にグループディスカッションが2時間設けられ、各大学、特に地方大学の方にとっては、相談先がなくて困っている現状が報告されました。この研修での繋がりを利用して、管理上、調べきれない問題については相談してゆく旨、確認されました。



配られた資料はこれだけの数に及びました。準備していただいた九州大学担当者の方に御礼申し上げます。